

基本的方向性		I 健康を支援するコミュニティの実現									
取組分野		1 社会的つながり(ソーシャルネットワーク)									
評価指標		計画策定時	H30参考	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値			
健康に気を付けている人の増加(20歳~64歳)		82.2%※1	《参考90.4%》※3	《参考87.8%》※3	—	—	—	85%			
地域活動参加の割合の増加(65歳以上)		63%※2	《参考58.3%》※3	68.6%	—	—	—	80%			
データ抽出元 ※1:健康状況アンケート調査 ※2:日常生活圏域ニーズ調査 ※3:市民健康診査及び特定健康診査問診票											
重点目標 <人とつながりながら健康づくりへの関心が高まる>											
基本施策 ○市民がより健康づくりに取り組めるようにするための情報発信及び相談体制の整備 【文言の省略】新型コロナウイルス感染症=感染症											
市の主な取組(事業名)		目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
取り組みの目的			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 各種健康教育、健康相談の実施											
a) 生活習慣病予防に関する健康講座等		指標	「未病」に関する講座の参加者数(人)					・新たに民間設置で2か所の未病センターが認証を受け、公設3か所の未病センターと協働で健康相談会を開催。感染症対策を講じた実施のため定員を少なくし、回数は増したが、利用人数が増えなかった。 ・市内イオンモールにて健康増進連携企業の協力を得て「未病改善」の普及啓発を広く行った。 健康相談会、健康講座:10回60人(R2年度:8回47人)	B	感染症拡大防止を行いながら、未病センターを活用した健康講座や健康相談会を実施し、「未病改善」の普及啓発に努めていく。	健康づくり課
目的:「未病改善」を知る人を増やす 内容:市内3か所に未病センターを設置し、未病センターで健康に関する普及啓発を実施		目標値	240	240	240	240					
		実績値	182	47	60						
b) 幼小中PTA向け出張講座(食事・運動・こころ)		指標	講座アンケートで「健康はだの21」知っている割合(%)					幼稚園・こども園・小中学校に講座の案内を通知したが、前年に引き続き、感染症の影響で依頼数が少なかった。講座では、健康はだの21の情報とともに、若い世代に向けた健康づくりの情報、特定健康診査及びがん検診の受診勧奨を行った。 身体活動:2校(R2年度:2校)	B	新規の実施校数を増やすため、年間予定に組み込むよう、引き続き、前年度中に案内を学校へ送付する。また、若い世代をターゲットとし、家族ぐるみで健康意識が高まるような講座内容を検討し、健康づくりの情報も発信していく。	健康づくり課
目的:若い世代で健康づくりへの関心が高まる人を増やす。 内容:幼稚園・こども園・小・中学校のPTA向けの講座を実施		目標値	50	50	50	50	50				
		実績値	38.0	45.7	54.5	54.8					
c) 高齢者向け出前講座		指標	出前講座の延参加者数(人)					感染症拡大の影響で、活動自粛する団体はあったものの、少しずつ活動を再開する団体もあり、昨年度より講座回数および参加者数は増加した。 運動:82回 1158人 栄養:16回 254人/口腔:19回 287人 認知症予防:19回 262人 その他:36回 517人	B	昨年度に引き続き、感染症拡大防止のための活動を見合わせる団体もあったが、コロナ禍でも少しずつ活動を再開する団体も増えてきている。引き続きフレイル予防の視点を取り入れた講座を重点的に行っていく。	高齢介護課
目的:介護予防に関心がある高齢者を増やす。 内容:老人クラブや自治会などの活動の場に出向き、健康講座、介護保険制度や健康づくり、認知症予防の講座を行う。		目標値	3,700	3,900	4,100	4,300	4,500				
		実績値	4,095	4,207	1,880	2,478					
イ 若い世代への健康情報の発信		指標	がん検診の全電子申請の数(件)					若い世代のがん検診の電子申請を増やすため、QRコード付のリーフレットで情報発信をした。令和3年度から、がん検診等の申込みが、年度途中でも可能としたことから、次年度実施分となる電子申請数は、ほぼ横ばいとなった。	A	乳幼児健診や幼稚園・保育園の全保護者やPTA対象の講座等でもリーフレットを配布し、新規申込みを対象とした若い世代に向け、電子申請による検診の申し込み方法について、情報発信に努めていく。	健康づくり課
目的:SNS等を活用して、若い世代の人が容易に健康情報を得られる 内容:QRコードや電子申請等の体制整備		目標値	1,000	1,200	1,400	1,600	1,800				
		実績値	1,435	1,415	2,107	1,618					
ウ 各公民館での講座の開催		指標	公民館自主事業参加者数(人)					新型感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き公民館まつりが実施できなかったが、新型感染症の規制が緩和されたことから、昨年度と比較して事業数、参加者数が増加した。 市内11公民館の自主事業:303件 12,533人(R2:225件)	B	公民館自主事業は、講師の負担の課題や内容、周知方法について充実していくことが課題。また、令和4年度からは、高齢者向けのスマートフォン体験講座などデジタルデバイドの改善に向けた事業に取り組むとともに、新型感染症対策として、規制を緩和した自主事業(人数制限など解消)、公民館まつりの開催などにより、参加者の増加を見込む。	生涯学習課
目的:市民が教養の向上、健康の保持・増進及び社会参加をする。 内容:各公民館での健康づくり事業や講座の開催		目標値	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000				
		実績値	45,545	49,164	6,456	12,533					
市の主な取組(事業名)		目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
内容			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 大学との協働事業の実施											
a) 東海大学体育学部との協働による運動講座		指標	運動講座参加者数(人)					感染症の影響で令和3年度の開催はなかったが、東海大学、スポーツ推進課と協働で、ウォーキングガイドを作成、各課の講座等で配布し、効果的なウォーキングについて普及啓発した。	B	感染症拡大状況を鑑みながら、次年度以降協働して事業を進めていく。	健康づくり課
目的:若い世代へ学術的根拠をもとにした健康づくりの普及啓発を行う。 内容:東海大学と協力して講座を開催		目標値	30	30	30	30	30				
		実績値	35	24	56	—					
b) 高齢者を対象とした東海大学体育学部との連携		指標	体力測定会参加者数(人)					平成19年から同事業を継続して実施。令和2年度は感染症拡大防止のため、学生の協力が難しく、中止となった。今年度は、東海大学体育学部教授、リハビリテーション専門職の協力を得て開催予定だったが、感染症拡大の影響により、1回の開催。	D	感染拡大により、これまでとは異なる体制で実施を試みたが、多くの人員が必要な本事業の開催は困難だった。今後は、高齢者の運動継続の場として、通いの場の拡大といった形に移行していく。	高齢介護課
目的:高齢者が自分の体力に合った運動を継続する。 内容:通いの場(体操実施団体)に出前講座を行う。地域における介護予防の取り組みを強化するため、地域リハビリテーション活動支援事業の打合せを実施。委託事業として体力測定会と結果説明会を開催。		目標値	400	400	400	400	—				
		実績値	400	427	0	20					
イ 健康増進事業計画推進協議会との協働事業の実施		指標	健康づくりイベントの協働開催数(回)					感染症の影響により、例年実施していたイベントを中止したため、協議会委員と協働での啓発活動は実施できなかったが、健康増進事業計画推進協議会の書面会議にて、各団体の活動状況について情報共有した。 ・市内イオンモールで開催した「かながわ再発見フェア」未病・健康ブースにてパネル展示・チラシの配布:513人、健康測定参加:331人	B	感染症の状況を鑑みながら、秦野市健康増進計画推進協議会と協働し、コロナ禍において「健康はだの21」を普及啓発する機会を検討する必要がある。	健康づくり課
目的:地域の団体から推薦された健康増進計画推進協議会(市民代表)が普及啓発を行う。 内容:健康づくりイベントを実施し、活動を支援する(春風ウォーク、たばこ祭、健康フェスティバル)		目標値	3	3	4	4	4				
		実績値	3	3	—	—					
ウ 地域での体操会の開催		指標	さわやか体操を行う市内体操会の数					感染症の影響で休止していた直営体操会のうち、「丹沢あおぞら体操会」は、さわやかマスターの協力のもと、感染対策を講じた運営方法を見直し、再開することができた。 屋外実施の自主体操会は、さわやかマスターが中心となり継続できた。 直営体操会:2か所(1か所休止中) 委託体操会:3か所、自主体操会:5か所	B	休止中の「ラジオ体操会」について、次年度開催予定の「さわやかマスター養成講座」をきっかけに、再開を目指して準備していく。約2年間、さわやかマスターの活動の場が少なかったことから、活動意欲の維持向上に向けて、支援を行っていく必要がある。	健康づくり課
目的:地域で、人とつながりながら健康づくりを継続する「体操会」の参加人数を増やす。 内容:さわやかマスターが中心となり、体操会を定期的開催		目標値	12	13	14	15	16				
		実績値	12	11	10	10					
エ さわやか体操出張講習会		指標	さわやか体操出張講座の地域からの依頼(回)					感染症の影響で、依頼団体数は令和2年度に引き続き減少した。前年に依頼のあった生命保険会社から、フォローアップの希望があり実施した。実施回数:6回、参加人数:120人	C	感染状況を鑑みながら、地域からの依頼が増えるよう、さわやか体操PRする機会を増やしていきたい。	健康づくり課
目的:地域の活動団体や自主サークルへさわやか体操を広める。 内容:依頼のあった団体へ、体操普及ボランティア「さわやかマスター」と協力して、さわやか体操の出張講習会を実施		目標値	10	11	12	13	14				
		実績値	11	19	8	6					

基本施策 ○行政とボランティアとの協働による健康づくりの推進及び見守り体制の構築											
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)		
		H30	R1	R2	R3	R4					
ア 健康推進員の養成・育成及び活動支援	指標	健康推進員養成講座の受講者数(人)					感染状況に応じて開催時期を考慮して実施。未病センターの新規設置に伴い、民間事業者の従事者を受け入れた。また、現任研修会は、健康推進員養成講座と合同で開催し、延べ41名が受講した。養成講座受講者6人中、入会者なし(R2年度入会率:38.5%)	C	健康づくりに関するボランティア活動を行う市民活動団体(公衛会)の会員数が減少し高齢化の問題もあり、令和4年度で休会。健康推進員の活動及び養成講座の全面的な見直しを図り、若い世代や働き世代を含めた啓発活動ができるよう事業の立て直しを行う。		
目的:健康づくりが市民から市民に広がることを目指し、地域で、健康に関する知識を普及する人を増やす。 内容:栄養・運動・介護予防などの健康に関する知識を普及するボランティアを養成する講座を開催	目標値	15	15	15	15	15					実績値
イ 食生活改善推進員の養成・育成及び活動支援	指標	食生活改善推進員養成講座の受講者数(人)					HPの他、タウン紙への掲載など、市民へ周知して実施。感染症拡大防止のため調理実習は中止したが、実施日程を昨年度から1日増やし、内容の充実を図った。また、例年のような調理実習や交流会ができない中、会長との交流の場を設け、入会への不安を軽減する機会とした。受講者4人中、3人が入会:入会率75%(R2年度入会率:69.2%)	B	参加者同士や会員との交流から仲間づくりができ、入会や入会後の活動にもつながると考えられる。活動の魅力ややりがい伝えていくことで会員数を増やし、団体の円滑な活動に対する支援を継続していく。今後は、参加者の理解度に合わせ、より専門性のある講話内容を検討する。		
目的:地域で食生活改善推進活動を実践するボランティアを増やす。 内容:食に関する知識を普及するボランティアを養成する講座を開催	目標値	15	15	15	15	15					実績値
ウ 市民体操普及員(さわやかマスター)の養成及び支援	指標	さわやかマスターの登録者数(人)					・実施予定だった「養成講座」は、感染症の影響で、R4年度に延期とした。 ・現任研修会を実施し、相互の交流とコロナ禍での活動の注意点や情報交換を行い、活動意欲の維持向上を図った。	B	・次年度は「養成講座」を開催し、新規登録者数を増やしていく。 ・現任研修会では、一部変更した「ゆつくりバージョン」の習得を目指す。新規と現任の交流の機会を設けながら、さわやかマスターの活動の場を広げ、支援していく。		
目的:地域でさわやか体操を普及するボランティアを増やす。 内容:「さわやかマスター」養成講座と研修会の開催	目標値	63	70	70	80	80					実績値
エ 介護予防普及員の養成講座及び担い手の活動支援	指標	介護予防普及員の実人数(人)					・フレイルサポーター:実33人(R1より開始)養成講座2回 延32人 育成支援 練習会2回 ・脳の健康教室学習サポーター:実14人 ・コグニサイズ普及員:実68人 フォロー研修1回延24人 ・いきいき健康サポーター:実32人 定例会2回 延24人 フォロー研修1回 延16人	B	様々なサポーターが各々の活動場所、地域で活動されてきたが、フレイルサポーター以外の養成は休止している状況。令和4年度当初に各サポーターの今後の活動継続意向を確認し、サポーター活動の統合を図る。		
目的:地域で介護予防に役立つ活動を広めるボランティアを育成する。 内容:コグニサイズ普及員、いきいき健康サポーター、食のソムリエなど、介護予防などに関わるボランティアの養成及び活動を支援	目標値	—	—	—	—	—					実績値
オ ゲートキーパー養成講座	指標	ゲートキーパー養成累計人数(人)					感染症の影響で市民向け講座の開催が難しい中、感染対策を講じて一部オンライン開催を取り入れるなど工夫して実施することで養成人数を増やした。 職員向け:1回 30人、市民向け:7回 47人、職域向け:2回 39人	A	窓口で市民対応をする部署の職員や、地域で市民と接する機会の多い市民活動団体及び職域等を対象とした養成講座を定期的に開催する。		
目的:自分自身や身近な人のこころの不調に気づき、専門機関へ繋げられる人を増やす。 内容:ゲートキーパーについて学び、専門機関につながることを目指す講座を開催	目標値	1,000	1,200	1,300	1,400	1,500					実績値
カ 認知症サポーター養成講座	指標	認知症サポーター養成累計人数(人)					感染症の影響で、計画した多くの講座が中止となり、回数および養成数ともに減少したが、少人数での開催など、地域高齢者支援センター、秦野市認知症キャラバン・メイト連絡会の協力にて、学校、公共交通等に対して講座を実施した。 認知症サポーター養成:実776人 ステップアップ講座:20回 延234人	A	感染症対策を講じながら開催できた。今後はこれまでの養成講座を受けた団体に働きかけをし、実践的な内容のステップアップ講座の開催につながるよう、支援していく。		
目的:認知症高齢者にやさしい地域をつくる。 内容:認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者として何ができるのか学ぶ講座を開催。より理解を深め見守る立場から支える立場を目指して、ステップアップ講座を開催。	目標値	10,000	12,100	14,300	16,000	18,000					実績値
キ 地域の介護予防活動に対する支援事業	指標	地域介護予防活動の補助交付数(団体)					・計67団体が補助を受け活動。 ・住民ボランティア団体、シルバー人材センター等に補助金を交付し、訪問型サービスB、D及び通所型サービスBを実施。 訪問型サービスB(住民主体) 2団体 319件利用 訪問型サービスD(移動支援) 3団体 689件利用 通所型サービスB(住民主体) 7団体 2,019件利用	B	地域介護予防活動支援補助金について周知をすることで、地域で介護予防につながる活動団体を増やし、さらに身近な地域の通いの場の充実を図る。		
目的:地域で身近な通いの場の充実を図る。 内容:地域住民が主体となり、高齢者の居場所づくり、生きがいづくりとなるような介護予防活動を行う団体に対する支援	目標値	88	94	102	110	117					実績値
ク 認知症カフェへの支援	指標	認知症カフェ数(箇所)					・市内全域の認知症の人と家族が参加できるカフェ&サロンの情報を集約し、認知症の人と家族が集える場所の情報提供を行った。 ・市内7地域高齢者支援センターに認知症地域支援推進員による支援もあつたため、認知症カフェ数の維持が図られた。	A	地域高齢者支援センターと連携を図り、認知症カフェの開設等、認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりに取り組んでいく。 令和3年度より目標値を第8期秦野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に合わせた。		
目的:認知症の人の居場所づくりや、心理的負担の軽減等を図る。 内容:地域住民が運営する誰もが集える場「認知症カフェ」に対する支援	目標値	8	9	10	25	27					実績値
ケ 元気高齢者の就労支援、活躍の場の拡大	指標	「認定ヘルパー養成研修」等開催数(回)					介護人材・送迎員等を募集している事業者への情報提供を行い、研修修了者の就労支援を行った。 また、介護分野への多様な人材の参入を促進するため、介護に関する入門的研修や生活援助者従事者研修を開催した。 ・認定ヘルパー研修(2日間×1回) 修了者21人 ・認定ドライバー養成研修(3日間×2回) 修了者40人 ・介護に関する入門的研修(21時間×1回) 修了者15人 ・生活援助者従事者研修(59時間×1回) 修了者9人	A	介護人材や送迎員を募集している事業者への情報提供を引き続き行い、高齢者を含めて幅広い人材が地域で活躍できるよう支援する。 令和3年度から国の委託を受けて実施している高齢者の就労支援を目的とした「生涯現役促進地域連携事業推進協議会」と連携を図り、研修修了者の就労や地域活動の支援につなげる。		
目的:高齢者が地域で活躍し、就労できる 内容:介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービスの担い手として「認定ヘルパー養成研修」「認定ドライバー研修」の実施	目標値	5	5	5	5	5					実績値
コ 市民と行政が協働して行う事業の推進(はだのさわやか体操で介護予防)	指標	さわやか体操 延参加者数(人)					・感染拡大時には一時的に休止した団体が多かったが、年度末には新規団体も立ち上がっている。 ・感染状況に応じて、休止、実施を繰り返していたが、年度末には平時の活動状況に戻り、各団体が介護予防活動の重要性を再認識されたようだった。 ・理学療法士や大学教授と連携し、定期的なフォローアップで、継続支援を行った。 ・「はだのさわやか体操」で介護予防を実践する団体:新規4団体 ・継続団体(R3年度末):33団体 実338人	A	さわやか体操を通じて、フレイル予防の周知を図り、会が継続できるような支援するとともに、今後も地域の見守り機能の拡大につながるコミュニティの形成を目指す。 令和3年度より目標値を第8期秦野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に合わせ、延参加者より実人数に変更したため目標値も変更した。		
目的:高齢者の身体づくりを支援する。自主グループを増やし、地域の見守りや高齢者の閉じこもり予防につなげる。 内容:病院、NPO法人、東海大学と協働して、徒歩で通える範囲内にある会場を拠点に、オリジナルDVD(はだのさわやか体操で介護予防)を見ながら自主的に活動するグループを市内全域に増やし、支援する。	目標値	600	1,200	1,800	430 (実)	500 (実)					実績値

|